

報 告

# 第 43 回日韓技術士国際会議（水原）報告

A Report on the 43<sup>rd</sup> Japan Korea Professional Engineers Conference in Suwon

第 43 回日韓技術士国際会議は、2013 年 10 月 17 日（木）より 19 日（土）までの 3 日間、韓国水原市の Ibis Ambassador Suwon Hotel 15F 大会議場を主会場として開催された。水原市（京畿道）は、ソウル南方約 30 km に位置する人口 120 万の主要都市である。現在は「世界の Samsung」の本拠地として知られる。今回の会議テーマは、「未来科学技術時代における技術士の役割」である。プロフェッショナルとして自らの専門技術を深く掘り下げ、また、その技術をいかに現実の問題に適用するかという日常業務に取り組む技術士にとって、「未来」という言葉に見るように、先を見通す長期展望をも持つべきであるということを示唆する重要なテーマである。参加者数（技術士、同伴者、事務局）は、日本から 121 名、韓国から 154 名の総勢 275 名であった。

これまで用いられていた日韓で異なる会議呼称（日本側：日韓技術士会議、韓国側：韓日技術士合同シンポジウム）が初めて統一され、「日韓技術士国際会議（韓国では韓日技術士国際会議）」となった。韓国技術士会の素晴らしい大会運営と参加者のご協力により、プレイベントにつづき、本会議、研修視察と 3 日間に亘るプログラムは、滞りなく成功裏に終了した。

## ●プレイベント（10月17日 午後）

青年技術士	第 9 回日韓技術士親善サッカー大会
女性技術士の会	第 7 回日韓女性技術士交流会

水原総合運動場において VIP による PK セレモニー、代表チーム戦、フレンドリー戦などが展開された。代表チーム戦は、日韓技術士会サッカー球史に残る好試合であった。結果は雌雄を決することなく、2-2 のドローで幕を閉じた。

競争力強化をテーマとする日韓女性技術士交流会は、新風を吹き込む若い技術士の参加で、これまでも増して活発な討議が行われた。



写真 1 日韓親善サッカー、両雄激突す（水原総合運動場）



写真 2 競争力強化の拳（こぶし）、新風成る女性技術士交流会

## ●式典・全体会議（10月18日 午前）

式典・全体会議には同時通訳が採用された。両国会長による式辞に続き、来賓からご祝辞を頂いた。レディースコースは、従前どおり式典終了後出発となった。

全体会議は、両国技術士交流実行委員長による年間活動報告の後、李康建氏、富田武彦氏により、会議テーマに基く未来科学技術に視点を向けた内容の基調講演が行われた。

両国会長挨拶	嚴翼俊（韓国） 吉田克己（日本）
来賓挨拶	水原市長
両国委員長報告	金在權（韓国） 伊藤徹（日本）
基調講演	「科学技術時代の到来に続く創造経済活性化と経済主体の役割」 李康建（韓国） 「未来科学技術における技術士の役割」 富田武彦（経営工学）



基調講演中の富田会員

↑ 本会議  
（IBIS Ambassador Suwon Hotel 大会議場）  
受付前の吉田会長と実行委員 →



写真 3 本会議（IBIS Ambassador Suwon Hotel）

## ●分科会（10月18日 午後）

午後は下記5つの分科会において、逐次通訳による活発な発表・討論が行われた。

第1分科会 「国土・環境・資源・エネルギー」 座長：李康建 副座長：田中俊生
(日本)「地域における技術士の活動ー環境教育の事例ー」周防元一(化学/総合),「未来のEnergy戦略と生活意識変革」稲垣正晴(応理/総合) (韓国)「水原華城未来空間形成のための基本戦略研究」劉完鐘(都市計画),「山林の保健医学的技能を活用した健康、治療地造成計画」李俊護(造景)
第2分科会 「建設・安全・防災」 座長：金斗煥 副座長：曾武川淳
(日本)「大規模地震災害に備える 災害状況再現・対応能力向上訓練 systemの開発ー世界一受けたい100回学べる訓練 Systemー」磯打千雅子(建設)(発表なし),「模型実験で住民に伝える『土砂災害を防ぐ技術』」藤井俊逸(建設),「設備施工会社の技術士から見た石綿関連作業の現状と課題」曾武川淳(衛生工学) (韓国)「高速鉄道車両の Tunnel 通過時の列車風圧に関する研究」南聖源(鉄道車両),「国内化学物質事故現況及び予防対策」李宰烈(土木施工),「韓国の危険性評価(Risk Assessment)制度」田豊林(化工安全),「韓国での建物外壁清潔員作業安全現況」李東冥(電気安全)
第3分科会 「技術者倫理・技術者資格・技術教育」 座長：李在亨 副座長：平野輝美
(日本)「中国地域が直面している人口減と県技術士会の組織について」牧山昭彦(建設),「行動する技術者倫理ー地震・津波による原発損傷回避のケース(Case)ー」泉館昭雄(電気電子),「大学における『法学』教育について」平野輝美(化学) (韓国)「韓国技術士の倫理意識」李在亨(土木構造),「技術士CPD教育過程の運営と改善方向」金永煥(土木施工)
第4分科会 「電気・電子・情報・通信・機械」 座長：金日 副座長：星俊臣
(日本)「Roles of Professional Engineers for coming ICT age」田吹隆明(情報工学),「科学技術の発展における機械技術の貢献と技術士の役割」掛川昌俊(機械/衛生工学/総合),「Maintenance業務のCost管理」星俊臣(機械/総合) (韓国)「SMART MMIS 系統設計 System Design for SMART MMIS」具仁守(産業計測制御),「国内電力設備現況とTBN制御設備DCS構成事例」李鍾河(産業計測制御),「Real Time Debugging Method of Embedded System」權永植(Computer System応用),IT技術をCCTV,CATV SYSTEMに融合させたSMART MONITORING SYSTEM」金日(電子応用)
第5分科会 「英語発表」 座長：崔仁傑 副座長：室中善博
(日本)「Comparisons of Mobile Internet Usage between Japan and Korea」野々垣智樹(情報工学),「Inkjet inks for color-changeable Ag films」前田秀一(化学/総合),「How should we cope with increasing CO <sub>2</sub> in pursuing a low-carbon society from a point of material-cycle?」室中善博(環境),「TPP and its Impacts on the Agriculture in Japan」森山浩光(農業) (韓国)「Four-rivers Restoration Project and Regional Development」柳忠鉉(都市計画),「2013 PE Licensure & Qualification Advocacy Topics」文幸奎(情報通信),「Case Study on the Design and Construction of Geotechnical Part」崔仁傑(土質及び基礎)

## ●ポスターセッション（10月18日 終日）

分科会と同じ3階において両国技術士によるポスター数点が展示された。

## ●レディースコース（10月18日）

韓国から17名、日本から13名が参加した。世界遺産華城見学後、韓服試着体験と、キムチ作り体験は大好評であった。

## ●親善晩餐会（10月18日 夕刻）

18時30分より本会議と同一の大広間において親善晩餐会が催された。両国技術士会会長、来賓の挨拶につづき、日本技術士会会員である田中喜一郎氏と富田武彦氏の2名に韓国技術士会から功労牌が授与された。引分試合のサッカーは、Visitor's advantageにより日本チームが優勝表彰を受けた。個人では、代表戦、VIPセレモPK戦につき最優秀選手が各2名(日韓各1名)が表彰された。韓国の伝統的な民族舞踊観覧のうち、韓国スタイルの乾杯発声を皮切りに、会場は交流の話声に包まれた。次期開催地紹介では、須賀委員を始めとする四国本部委員会チームが、松山の魅力をふんだんに盛り込んだ紹介を行った。恒例の韓国ご婦人方のコーラスにつづき、日本側からはご婦人のみならず多数の男性を含めたコーラスが披露され、晩餐会の大団円を飾った。

## ●研修視察（10月19日 終日）

研修視察はSamsungを訪れた。韓国経済の強力な推進役であるSamsungの歴史とその名だたる製品をつぶさに見る絶好の機会であった。また、西暦1796年李氏朝鮮時代に建設された華城を見学した。華城は、韓国有数の歴史的遺産であり、世界遺産にも登録されている。



写真4 研修視察（世界遺産・華城）

日韓技術士交流実行委員会 副委員長  
稲垣 正晴